会議録

会議の名称	第1回西東京市交通安全対策会議
開催日時	平成23年8月19日 13時30分から 14時30分まで
開催場所	田無庁舎 庁議室(3階)
出席者	【委員】山本聡委員、三國委員、山本豊委員、清水委員、鈴木委員、茂木委員、新田委員、新田委員(代理 西武鉄道(株)吉田<役職不明>)、徳永委員、加藤委員、尾崎委員、手塚委員、坂口基成委員 (欠席:屋宮委員、蚊野委員) 【西東京市】坂口市長、湊道路管理課長、保谷係長、岩崎主査
次第	1 委嘱状・任命書交付 2 職務代理の指名 3 会議の運営方法について 4 計画策定の考え方 5 西東京市の交通事故発生状況と課題について 6 交通安全施策の方向 7 計画の推進 8 今後のスケジュールについて 9 その他
会議資料	資料1 西東京市交通安全対策会議委員名簿 資料2 西東京市交通安全対策会議条例 資料3 西東京市交通安全対策会議傍聴要領 資料4 交通安全計画の骨子 資料5 今後のスケジュールについて 資料6 第8次 西東京市交通安全計画(参考資料)
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(凡例. ○発言者名:発言内容)</p> <p>○事務局:開会の挨拶、会議資料等の確認</p> <p>○会長:委嘱状・任命書の交付</p> <p>○会長:挨拶</p> <p>○各委員:自己紹介・挨拶</p> <p>○事務局:事務局紹介</p> <p>○会長:西東京市交通安全対策会議条例第3条第4項の規定により、職務代理を指名します。 副市長である加藤委員を指名します。 (異議なし)</p>	

○加藤委員（職務代理）：挨拶

○事務局：会議の公開の説明

○会長：「西東京市市民参加条例」に基づき、不開示情報を審議する場合と当会議において円滑な会議に支障があるとして非公開と決議する場合以外は、原則公開とします。

（異議なし）

○事務局：西東京市交通安全対策会議傍聴要領の説明

○会長：傍聴の手続きについては、現行傍聴要領の定めるところにより実施します。

（異議なし）

○事務局：会議録の作成についての説明

○会長：「発言者の発言内容ごとの要点記録」による作成方法により、会議録を作成します。

（異議なし）

○会長：議題3の計画策定の考え方について、事務局より説明してください。

○事務局：計画の主旨は、都内の交通事故死者数や負傷者数は減少傾向にあります。しかし、人命尊重の理念に立って、交通事故による死傷者数をゼロに近づけ、究極的には、交通事故のない安全で安心な都市を実現していく必要があります。

交通安全対策を効果的に推進するために、交通情勢の変化に適切に対応し、総合的かつ計画的な対策を実施していく必要があります。交通事故のない市民が安全で安心して生活できる「まち」を実現することを目的に「西東京市交通安全計画」を策定します。

この計画により市及び関係機関が連携、協力して各種施策を着実に推進していくとともに、市民の交通安全に関する自助、共助の取組を支援することにより、その施策を実施していくものです。

計画の性格、期間は、交通安全対策基本法第26条第1項の規定により第9次東京都交通安全計画に基づき作成するものです。市内における陸上交通の安全対策に関する施策を総合的かつ長期的に推進するための大綱です。平成23年度から27年度までの5カ年です。

○会長：説明内容について何か意見等がありますか。

（異議なし）

○会長：議題 4 の西東京市の交通事故状況と課題について、田無警察署交通課長三國委員より説明・意見等を求めます。

○三國委員（田無警察署）：8月18日までの東京都内での交通事故発生件数は31,513件であり、死傷者138人、負傷者35,500人、昨年度比は件数2,282名の減少、死傷者14名の増加、負傷者2,574名の減少となっています。死亡事故は増加していますが、件数、負傷者数は減少しています。

西東京市の7月末までの人身事故発生件数は358件であり、昨年度比は40件の減少となっています。内訳としては死亡者3名で昨年度比は1件の増加、重傷者3名、軽傷者422名、負傷者数の昨年度比は29名の減少となっています。

また、状態別死傷者数は、全死傷者396人のうち171人が自転車であり、構成比率が43%で最も多くなっています。都内では、四輪車の事故が37%と最も多くなっています。

年齢別死傷者数は396人のうち30歳～39歳の交通事故死傷者が79名、次に40歳～49歳の交通事故死傷者が78名と多く、東京都と同じ傾向になります。60歳～65歳の高齢者の交通事故死傷者が少ないのが特徴的で、子供の交通事故死傷者は44名と都の平均よりも多くなっています。

○会長：説明内容について何か意見等がありますか。
（質疑なし）

○会長：それでは、議題5の交通安全施策の方向について事務局から説明をしてください。

○事務局：交通事故件数や死傷者数が減少傾向にある中で、安全で安心なまちづくりのため、大きく4点の重点施策を定め、各種交通安全対策を関係機関が連携して推進していきます。

(1)の重点施策として、ア高齢者の交通安全の確保、イ若者の二輪車事故等の防止、ウ自転車の安全利用の推進、エ飲酒運転の根絶となっております。

○会長：事務局の説明内容について何か意見等がありますか。
（異議なし）

○それでは、議題 6 の計画の推進について事務局から説明してください。

○事務局：(1) 行政機関 地域の実状に応じたきめ細やかな事業を実施するとともに、効果的な安全対策を推進し、市民を交通事故から守っていきます。(2) 事業者・交通関係団体・ボランティア 交通関係事業者は、交通安全教育を推進し、交通事故防止に努めることが求められています。また、地域における各交通関係団体やボランティアは、市や警察署と連携して、主体的・相互に協力しながら、効果的な安全対策事業を進めていくことが求められています。(3) 市民 市民一人ひとりが交通ルールの遵守と正しいマナーを実践し、交通安全について考え、行動するとともに自助・共助の取り組みを進めていくことが求められています。

○会長：事務局の説明内容について何か質問・意見等がありますか。

(異議なし)

○会長：それでは、議題 7 の今後のスケジュールについて事務局から説明をしてください。

○事務局：会議の回数は、本日を含め合計 4 回を予定しています。2 回目の会議では、講じようとする施策について、また公共交通の安全確保について、あわせて救助・救急体制の整備について。3 回目の会議では交通安全計画(案)を提示し、12 月にパブリックコメントを実施。4 回目の会議で市民からの意見をとりまとめた上で計画を策定し、5 回目の会議で委員の皆様の承認をいただきたいと考えています。

○会長：今後のスケジュール・進め方についてはいかがでしょうか。

(異議なし)

○会長：このほかに、事務局から何かありますか。

○事務局：西東京市非常勤と特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例について説明
次回(2回目)会議は 10 月 14 日(金)を予定しています。

○会長：閉会の挨拶

<その他委員意見>

- 清水委員：自転車の交通安全指導を街頭で行っているが、通学中の高校生の傘差しなどを注意してもほとんど聞いてくれない。カップ等を持参するといった指導をするように学校等に行政からお願い状を出して欲しい。
- 会長：それらは検討課題である。傘差しや無灯火対策等の具体的にどういった対策を講じるかを会議の中で提案してほしい。
- 事務局：高校生の自転車マナーの悪さは課題となっている。都の課長担当会議で、都立高校については東京都の教育委員会から自転車の乗り方について指導を行うように各校に通知を出すこととなっている。私立高校とも連携をとって、取組みを行いたい。
- 会長：組織的な取り組みと現場での取組みの両方が重要である。安全協会や警察等を含めて、今後の取り組みについて、一歩踏み込んだ意見交換をして、反映させていきたい。
- 鈴木委員：東京都内の交通事故死者数のうち、60歳以上は37%を占めており、改めて多いと認識した。西東京市内では何%か？
- 三國委員（田無警察署）：7月末時点で今年度の65歳以上の交通事故負傷者は369人中54名で、約14%を占めている。
- 会長：たしかに、都内全体では、高齢者の交通事故死者数の割合は多いといえる。高齢者の歩行者、自転車利用者のルール・マナーの啓発が課題である。
- 茂木委員：路肩駐車は減ってきており、歩行の快適性は改善しつつあると感じている。自転車についての問題点は携帯使用やタバコを吸いながらの走行といったマナー違反である。
- 会長：路肩駐車が減少してきたのは警察の取り締まりの成果であると思う。行政としても道路整備等のインフラ対策を進めているが、整備が遅れている路線もある。主な整備路線は、保谷駅南口の整備、都道調布保谷線の整備であり、車道部分4車線と環境施設帯を10m整備する。歩道とサイクリングロードが整備され、今までになかった道路であり、安全性向上に貢献できる。
- 茂木委員：自転車が走りやすい直線コースだと自転車の飛ばしすぎの課題がでてくると想定されるので、ルール・マナーの教育活動は引き続き行う必要がある。
- 清水委員：二輪車の死亡事故が2件の死亡と報告されたが、二輪車側、自動車側の運転手の年代はどうなっているか。

○三國委員（田無警察署）：1件目の事故は、自動車側は宅配中で運転者は20代、二輪者の運転手は23歳であった。2件目は天神山交差点で発生し、自動車側は軽四貨物自動車で運転手は60代、二輪車の運転手は18歳の高校生（アメリカンスクール在学）でオートバイ通学をしていた。天神山交差点はややカーブになっている。二輪車の交通事故は死亡事故となりやすく対策が必要である。見通しが悪い箇所の対策や中央線が薄れてきている箇所の修繕等の対策実施を考えている。

○清水委員：天神山交差点はヒヤリ事象が多いと感じている。交通安全協会にも信号位置をずらしてほしい等の要望が多い。

○会長：田無警察署に協力して頂いて改善傾向にあるが、西東京市内は危険の大きい斜め交差点が多いという課題がある。引き続き、高齢者や子供に対する安全対策やマナーの啓発は必要であり、また引き続き、調布保谷線の整備と交差点安全対策を進める。

○山本聡委員：天神山交差点が東京都としても、対策を実施している。

○新田委員：今年度踏切事故があり、踏切に設置する押しボタンの啓蒙活動に協力をお願いしたい。

○会長：利用者の多い東伏見の踏切の拡幅も進めていきたい。次にバス事業者から何かないか。

○山内委員：東日本大震災以降に自転車交通が増加している。また、以前よりマナーが悪くなっており、乗務員も注意して運転しているが限界がある。

○徳永委員：自転車乗用中にヘッドホンで音楽を聴く、携帯電話を見る、無灯火で夜間走行、後ろを見ないで曲がる、車道の逆走など、自転車マナーが悪いと感じている。また、自転車事故を防ぐためのバスの急停車による車内事故が増加傾向にある（3年前位はゼロに近かった）。また、新規マンション開発により、向台4・5丁目の人口が増加している。裏の出口側の道路が狭いため自家用車がバス通り側に出て来ており、バスと錯綜が生じやすくなっている。安全運転の啓蒙活動については、他社も含めて事業者として、所轄警察署と連携して実施している。

○会長：自転車免許のような仕組みを実施している自治体もあり、道路が未整備で交通が錯綜していて危険な状況を改善するための取組みを今後対策会議のなかで議論していきたい。

○会長：特になければ終わりたいがよろしいでしょうか

閉会